

○トリス（クロロプロピル）ホスフェートに対して課する暫定的な不当廉売関税に関する政令（案）新旧対照表

（傍線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
<p>トリス（クロロプロピル）ホスフェートに対して課する不当廉売関税に関する政令</p> <p>（課税物件）</p> <p>第一条 第一号に掲げる貨物であつて、第二号に掲げる国を原産地とするものうち、第三号に掲げる期間内に輸入されるもの（以下「特定貨物」という。）には、関税率法（以下「法」という。）第八条第一項の規定により、不当廉売関税を課する。</p> <p>一 法の別表第二九一九・九〇号に掲げる物品のうちトリス（クロロプロピル）ホスフェート（第三条第一項において単に「トリス（クロロプロピル）ホスフェート」という。）</p> <p>二 中華人民共和国（香港地域及びマカオ地域を除く。）</p> <p>三 令和二年九月十七日から令和七年九月十六日までの期間</p> <p>2 前項第一号に掲げる貨物であつて、同項第二号に掲げる国を原産地とするものうち、令和二年六月二十七日から同年九月十六日までの期間内に輸入されるもの（以下「暫定不当廉売関税賦課貨物」という。）には、法第八条第二項第一号の規定により、不当廉売関税を課する。</p> <p>3 この政令における原産地については、関税法施行令（昭和二十九年政令第五十号）第四条の二第四項に定めるところによる。</p> <p>（税率）</p>	<p>トリス（クロロプロピル）ホスフェートに対して課する暫定的な不当廉売関税に関する政令</p> <p>（課税物件）</p> <p>第一条 第一号に掲げる貨物であつて、第二号に掲げる国を原産地とするものうち、第三号に掲げる期間内に輸入されるもの（以下「特定貨物」という。）には、関税率法（以下「法」という。）第八条第九項の規定により、同項第一号に規定する暫定的な関税（以下「暫定不当廉売関税」という。）を課する。</p> <p>一 同上</p> <p>二 同上</p> <p>三 この政令の施行の日から令和二年十月二十六日までの期間</p> <p>2 同上</p> <p>（税率）</p>

第二条 特定貨物又は暫定不当廉売関税賦課貨物に課する不当廉売関税の税率は、三十七・二パーセントとする。

(提出書類)

第三条 税関長は、トリス(クロロプロピル)ホスフェート又は保税工場若しくは総合保税地域において行われたトリス(クロロプロピル)ホスフェートを原料の一部とする製造による製品である外国貨物を輸入しようとする者に対し、当該トリス(クロロプロピル)ホスフェートの原産地を証明した書類を提出させることができる。

2 関税法施行令第六十一条第二項及び第三項並びに関税暫定措置法施行令(昭和三十五年政令第六十九号)第二十八条の規定は、前項の書類について準用する。この場合において、関税法施行令第六十一条第二項中「同号の便益を受けようとする」とあるのは「その証明に係る」と、関税暫定措置法施行令第二十八条中「前条第一項」とあるのは「トリス(クロロプロピル)ホスフェートに対して課する不当廉売関税に関する政令第三条第一項」と、「蔵入れ申請等がされる物品については、当該蔵入れ申請等。以下この章において同じ」とあるのは「当該証明に係る物品について蔵入れ申請等がされる場合(以下この条において「蔵入れ申請等の場合」という。)にあつては当該蔵入れ申請等とし、当該証明に係る物品が特例申告に係る貨物である場合(蔵入れ申請等の場合を除く。)」にあつては当該特例申告とする」と読み替えるものとする。

(関税法の適用)

第四条 特定貨物又は暫定不当廉売関税賦課貨物に課する不当廉売関税及び法の別表の税率(条約中に関税について特別の規定があり当該特別の規定の適用がある場合にあつては、当該特別の規定による

第二条 特定貨物に課する暫定不当廉売関税の税率は、三十七・二パーセントとする。

(提出書類)

第三条 同上

2 関税法施行令第六十一条第二項及び第三項並びに関税暫定措置法施行令(昭和三十五年政令第六十九号)第二十八条の規定は、前項の書類について準用する。この場合において、関税法施行令第六十一条第二項中「同号の便益を受けようとする」とあるのは「その証明に係る」と、関税暫定措置法施行令第二十八条中「前条第一項」とあるのは「トリス(クロロプロピル)ホスフェートに対して課する暫定的な不当廉売関税に関する政令第三条第一項」と、「蔵入れ申請等がされる物品については、当該蔵入れ申請等。以下この章において同じ」とあるのは「当該証明に係る物品について蔵入れ申請等がされる場合(以下この条において「蔵入れ申請等の場合」という。)にあつては当該蔵入れ申請等とし、当該証明に係る物品が特例申告に係る貨物である場合(蔵入れ申請等の場合を除く。)」にあつては当該特例申告とする」と読み替えるものとする。

(関税法の適用)

第四条 特定貨物に課する暫定不当廉売関税及び法の別表の税率(条約中に関税について特別の規定があり当該特別の規定の適用がある場合にあつては、当該特別の規定による税率とする。)による関税

税率とする。)による関税については、それぞれ別個の関税として
関税法(昭和二十九年法律第六十一号)第二章の規定を適用する。

(還付の計算期間等)

第五条 特定貨物又は暫定不当廉売関税賦課貨物に係る第一条の規定
により課される不当廉売関税の法第八条第三十二項の規定による還
付の請求は、毎年九月一日から翌年八月三十一日までの期間(以下
この条において「計算期間」という。)ごとに、当該計算期間内に
輸入された特定貨物又は暫定不当廉売関税賦課貨物に係る同項に規
定する要還付額に相当する額について、しなければならない。

については、それぞれ別個の関税として関税法(昭和二十九年法律
第六十一号)第二章の規定を適用する。